

A工区地質記載シート

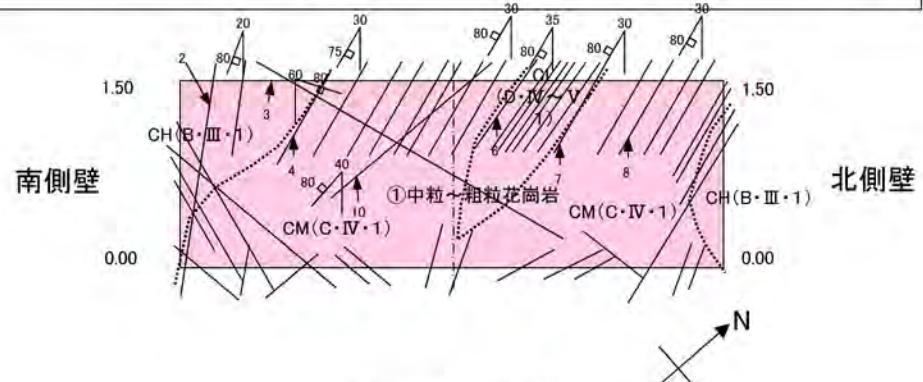
A3-請負-計測工(地質)-081001

| | | | | | | | |
|-------|------------|----|-------------------------|-------|---|--------|--|
| シート番号 | -300m避難坑-1 | 日時 | 平成20年10月1日 4:10~5:10 | 位置・深度 | -300m避難坑-1 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m | 観察・撮影者 | |
|-------|------------|----|-------------------------|-------|---|--------|--|

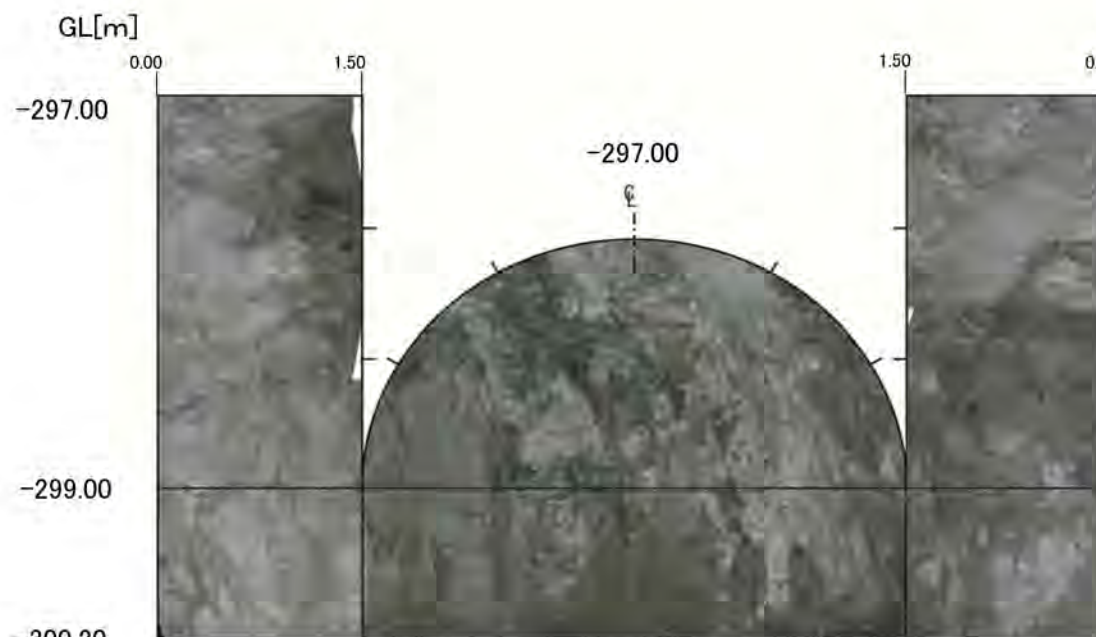
| | | |
|-------|-------|-----|
| 総括監督員 | 主任監督員 | 監督員 |
| | | |

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 湧水 割れ目 岩級区分境界 70° 割れ目の走向傾斜



スライス断面図

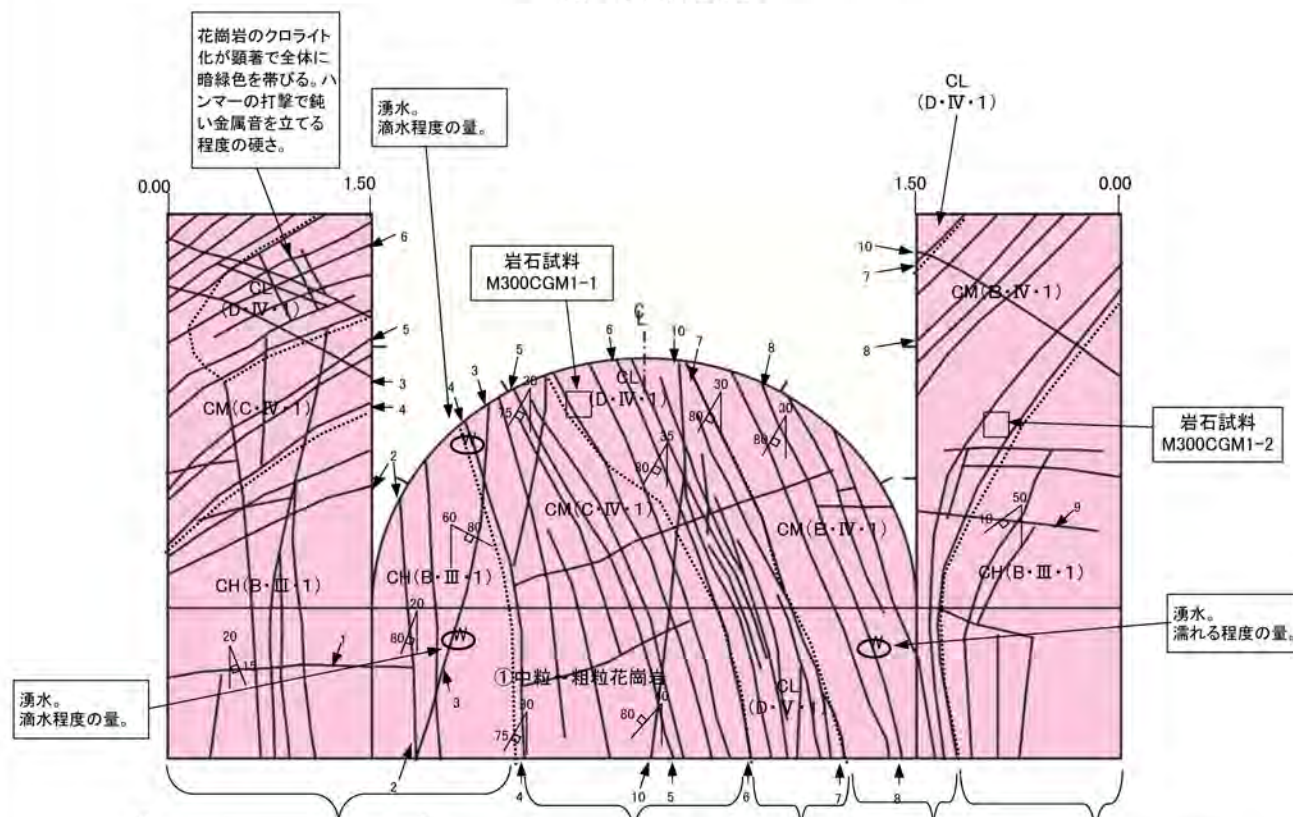


南側壁

可視画像

北側壁

0 1 2m



スケッチ

花崗岩は淡桃～橙色を帯びる。NW走向高角度東傾斜の割れ目が20～30cmの間隔で発達。また、NE走向高角度南傾斜の割れ目が30～50cm間隔で認められる。南側壁には低角度割れ目が認められる。硬さはハンマーの打撃で金属音を発する程度。割れ目面にはカルサイト、クロライトを挟在する。

黒雲母の大部分はクロライト化しており、花崗岩は全体に淡緑～暗緑色を帯びる。NW走向の高角度割れ目が5～10cmの間隔で発達。硬さはハンマーの打撃で鈍い金属音を発する程度。割れ目面にはクロライトを挟在する。

NW走向の高角度割れ目6と割れ目7の間は下半では割れ目が3～5cm間隔で密に入る。鏡面下部は脆弱化し崩れやすい。天端付近はクロライト化が顕著で、花崗岩は暗緑色を帯びる。

花崗岩は淡桃～橙色を帯びる。NW走向高角度割れ目が10～20cm間隔で入る。割れ目面にはクロライトとカルサイトを挟在する。硬さはハンマーの打撃で金属音を発する程度。

花崗岩は淡桃～橙色を帯びる。NW走向高角度割れ目が20～30cm間隔で入る。割れ目面にはクロライトとカルサイトを挟在する。硬さはハンマーの打撃で金属音を発する程度。

| | | | |
|----|------------------------|--------|--|
| 岩種 | 花崗岩 | 電研式岩級 | G.L. -297m~299m CH/CM/CL |
| 岩相 | ①中粒～粗粒花崗岩 (橙色、淡緑色、暗緑色) | RMR値 | G.L. -297m~299m 29 G.L. -299m~300.2m 29 |
| 風化 | α | 岩石試料番号 | M300CGM1-1 (花崗岩)、M300CGM1-2 (花崗岩) |
| 変質 | 3~4 | 採水試料番号 | 無 |
| 湧水 | 滴水程度 | | |

特記事項

当箇所は-300m連絡坑道の避難坑であり、掘進方向はN49W方向である。横坑観察は鏡面から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒～粗粒花崗岩で、φ10mm程度の長石が点在している。
花崗岩は鏡面の割れ目4から右側および南側壁と北側壁の上部では変質が強く、黒雲母などの有色鉱物は大部分はクロライトに置き換わり全体に淡緑～暗緑色を帯びている。鏡面左側及び南側壁の下部、北側壁上部では変質の程度が弱く、花崗岩は全体に淡桃～橙色を帯びている。
割れ目はNW走向の高角度東傾斜のものが卓越しており、鏡面中央側から北側壁中央から天端にかけては概ね3~10cm間隔で認められ、その割れ目のほとんどにカルサイト、クロライトを挟在しており、一部の割れ目面には淡緑色粘土を挟在する。また、鏡面左側にはNE走向の高角度割れ目が認められ、南側壁と鏡面中央には低角度の割れ目が認められ高角度の割れ目で止まる。これらの割れ目面にはカルサイト、クロライトを挟在する。

湧水は鏡面左側の割れ目3と割れ目4から滴水程度の量、鏡面右側の割れ目8から滴れる程度の量が認められた。
岩級区分は、割れ目4の左側から南側壁の下部までと北側壁の下部は割れ目間隔が20~30cmで、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることからCH(B・III・1)級。鏡面中央から天端の割れ目6付近と割れ目7の間は割れ目間隔が3~5cmで、ハンマーの打撃でやや鈍い金属音を発する程度の硬さで、一部脆弱化し崩れやすくなっていることからCL(D・IV~V・1)級。その他の箇所は割れ目間隔が10~20cmでハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることからCM(B・C・IV・1)級と判断した。

A工区地質記載シート

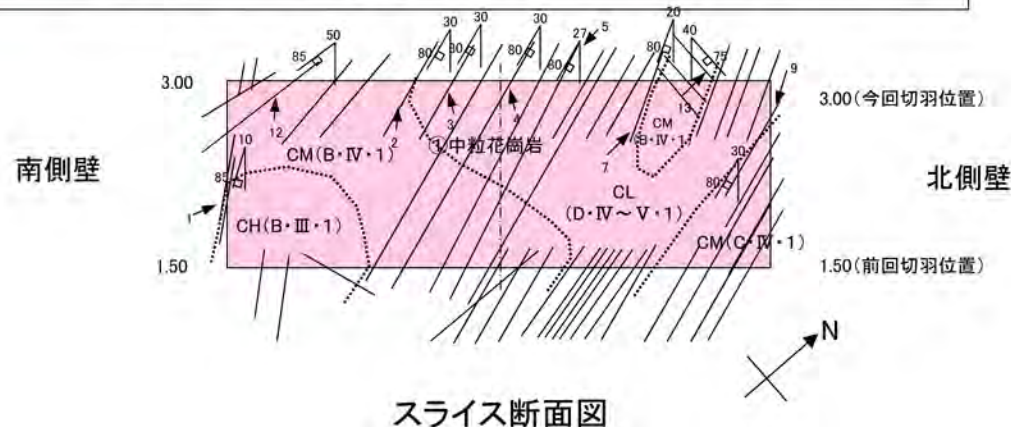
A3-請負-計測工(地質)-081002

| | | | | | | | |
|-------|------------|----|-------------------------|-------|---|--------|--|
| シート番号 | -300m避難坑-2 | 日時 | 平成20年10月2日 4:00~5:10 | 位置・深度 | -300m避難坑-2 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m | 観察・撮影者 | |
|-------|------------|----|-------------------------|-------|---|--------|--|

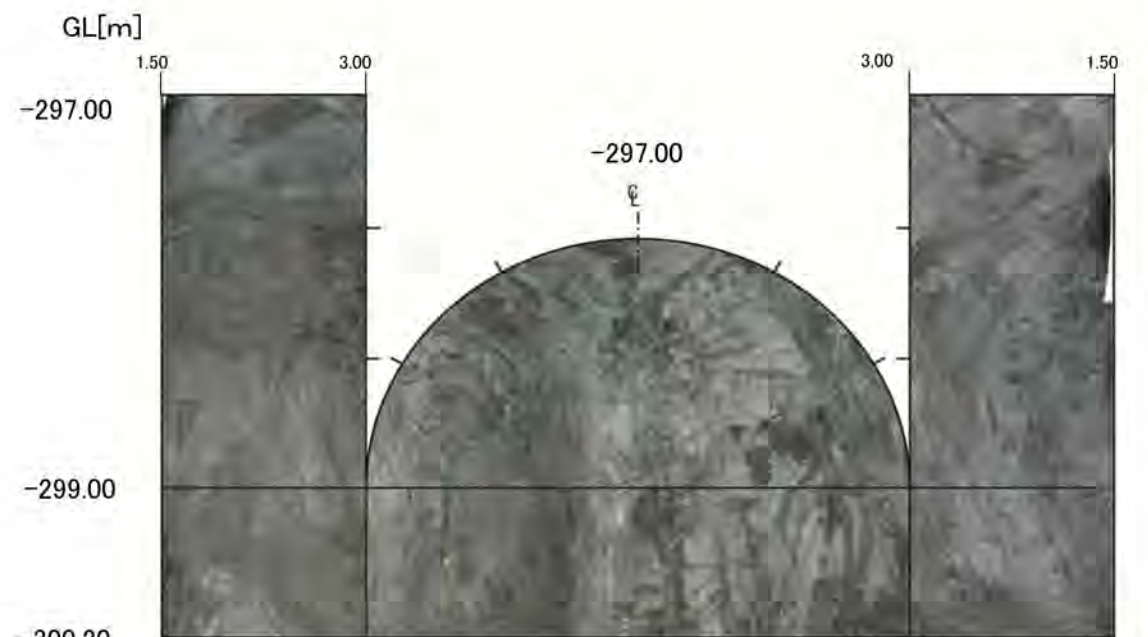
| | | |
|-------|-------|-----|
| 総括監督員 | 主任監督員 | 監督員 |
| | | |

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

| | | | | | |
|----|-----|----|-----|--------|----------|
| 凡例 | 花崗岩 | 湧水 | 割れ目 | 岩級区分境界 | 割れ目の走向傾斜 |
|----|-----|----|-----|--------|----------|



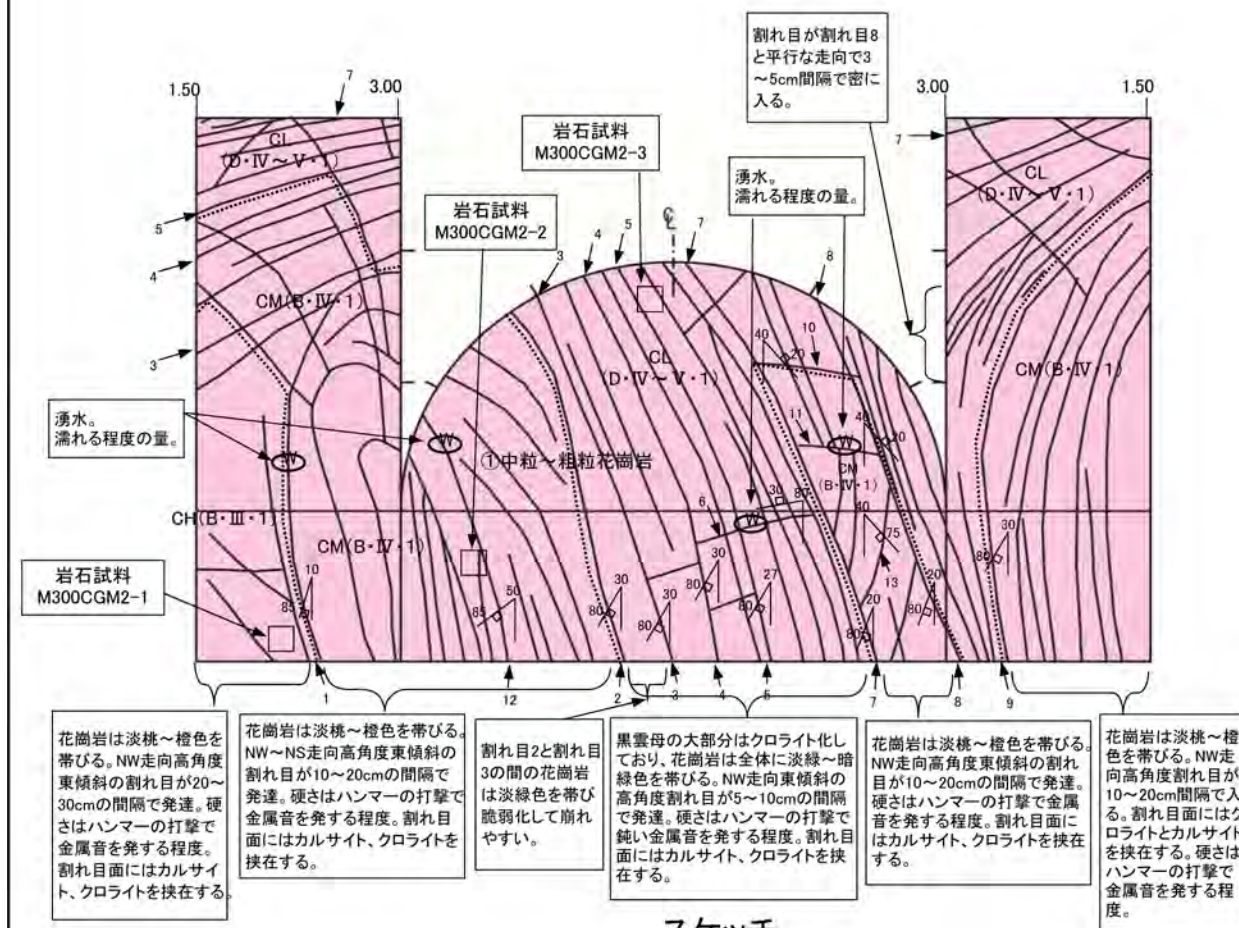
スライス断面図



南側壁

可視画像

北側壁



スケッチ

| | | | |
|----|------------------------|--------|--|
| 岩種 | 花崗岩 | 電研式岩級 | G.L. -297m~299m CH/CM/CL G.L. -299m~300.2m CH/CM/CL |
| 岩相 | ①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡緑色、暗緑色) | RMR値 | G.L. -297m~299m 32 G.L. -299m~300.2m 37 |
| 風化 | α | 岩石試料番号 | M300CGM2-1 (花崗岩)、M300CGM2-2 (花崗岩)、 M300CGM2-2 (強変質花崗岩) |
| 変質 | 3~4 | 採水試料番号 | 無 |
| 湧水 | 濡れる程度 | | |

特記事項

当箇所は-300m連絡坑道の避難坑であり、掘進方向はN49W方向である。横坑観察は鏡面から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩で、φ10mm程度の長石が点在している。
花崗岩は鏡面の割れ目2から右側および南側壁と北側壁の上部では変質が強く、黒雲母などの有色鉱物は大部分はクロライトに置き換わり全体に淡緑~暗緑色を帯びている。鏡面左側及び南側壁の下部と北側壁の下部では変質の程度が弱く、花崗岩は全体に淡桃~橙色を帯びている。
割れ目はNW走向の高角度東傾斜のものが卓越しており、鏡面左側から北側壁にかけて概ね5~10cm間隔で認められ、その割れ目のほとんどにクロライトを挟在しており、一部の割れ目には淡緑色粘土を挟在する。また、鏡面右側の下部にNE走向の高角度南傾斜の割れ目が10~20cm間隔で発達し、NW走向の高角度割れ目で止まる。

湧水は南側壁の割れ目1と鏡面左側の割れ目12、および鏡面右側の低角度割れ目6と割れ目11から濡れる程度の量が認められた。
岩級区分は、南側壁の下部は割れ目間隔が20~30cmで、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることからCH(B・Ⅲ・1)級。割れ目2と割れ目7の間は割れ目7と割れ目8の間を除き割れ目間隔が3~5cmで、ハンマーの打撃でやや鈍い金属音を発する程度の硬さで、一部脆弱化し崩れやすくなっていることからCL(D・Ⅳ・1)級。その他の箇所は割れ目間隔が10~20cmでハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることからCM(B・Ⅳ・1)級と判断した。

A工区地質記載シート

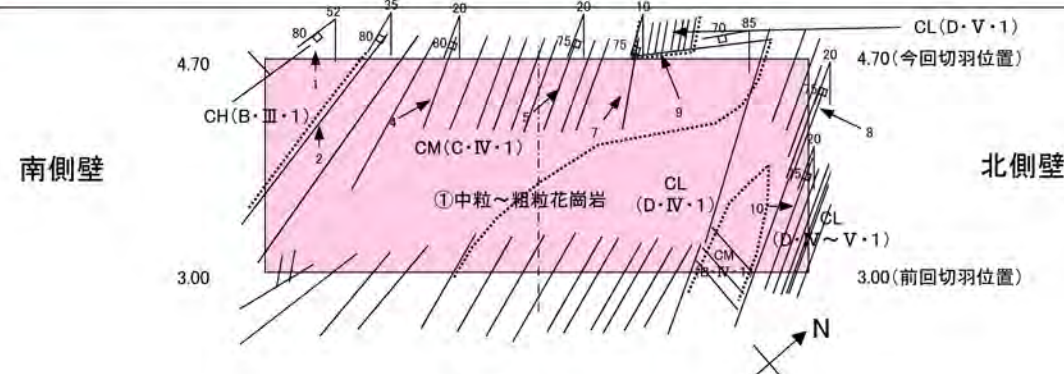
A3-請負-計測工(地質)-081003

| | | | | | | | |
|-------|------------|----|-------------------------|-------|---|--------|--|
| シート番号 | -300m避難坑-3 | 日時 | 平成20年10月3日 4:00~5:10 | 位置・深度 | -300m避難坑-3 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m | 観察・撮影者 | |
|-------|------------|----|-------------------------|-------|---|--------|--|

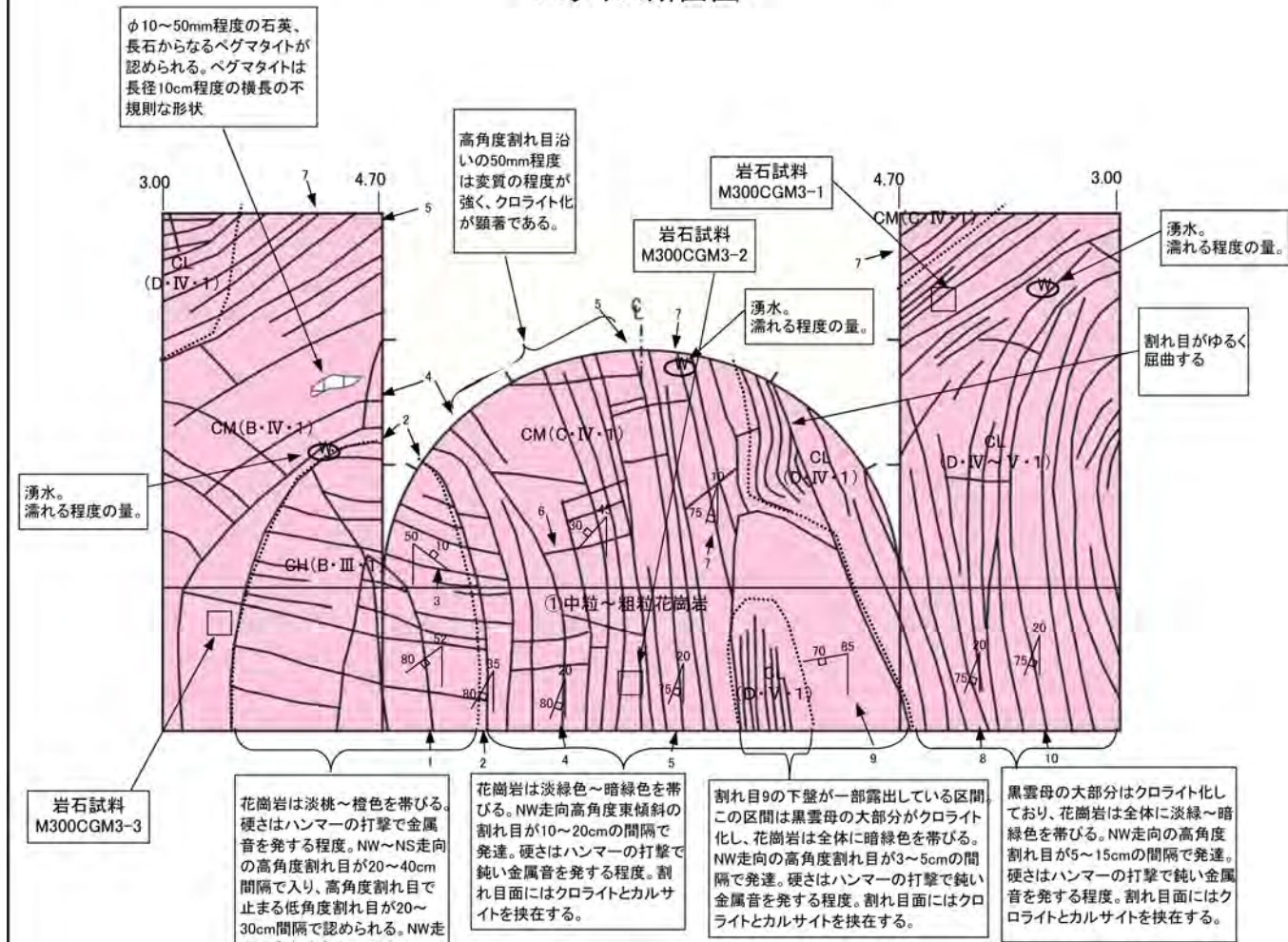
| | | |
|-------|-------|-----|
| 総括監督員 | 主任監督員 | 監督員 |
| | | |

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

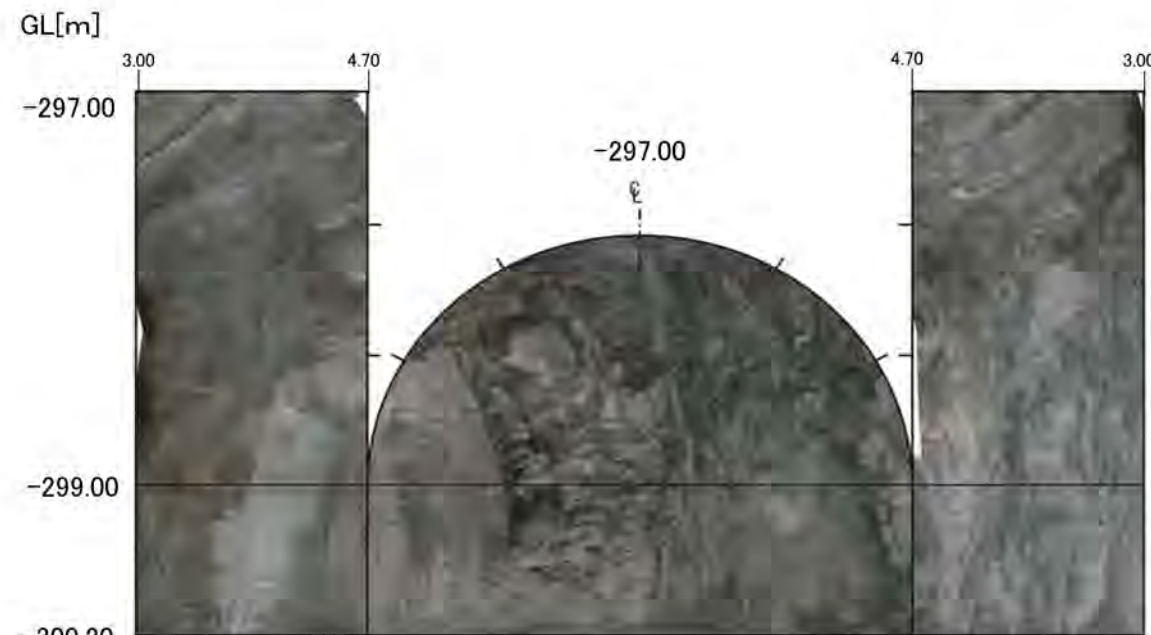
| | | | | | | |
|----|-----|----|-----|--------|----------|-----------|
| 凡例 | 花崗岩 | 湧水 | 割れ目 | 岩級区分境界 | 割れ目の走向傾斜 | pegmatite |
|----|-----|----|-----|--------|----------|-----------|



スライス断面図



スケッチ



南側壁

可視画像

北側壁

0 1 2m

| | | | |
|----|------------------------|--------|---|
| 岩種 | 花崗岩 | 電研式岩級 | G.L. -297m~299m CH/CM/CL |
| 岩相 | ①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡緑色、暗緑色) | RMR値 | G.L. -297m~299m 29 G.L. -299m~300.2m 35 |
| 風化 | α | 岩石試料番号 | M300CGM3-1 (強変質花崗岩)、M300CGM3-2 (花崗岩)、M300CGM3-3 (花崗岩) |
| 変質 | 2~4 | 採水試料番号 | 無 |
| 湧水 | 濡れる程度 | | |

特記事項

当箇所は-300m連絡坑道の避難坑であり、掘進方向はN49W方向である。横坑観察は鏡面から1.7m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩で、φ10mm程度の長石が点在している。
花崗岩は鏡面左側から南側壁下部の割れ目2の下盤は変質の程度が強く、黒雲母はクロライト化せず残存しており、全体に淡桃~橙色を帯びている。その他の箇所では花崗岩は変質が強く、黒雲母などの有色鉱物は大部分はクロライトに置き換わり全体に淡緑~暗緑色を帯びている。
割れ目はNW走向の高角度東傾斜のものが卓越しており、鏡面左側から北側壁にかけては概ね5~20cm間隔で認められ、その割れ目のほとんどにクロライトとカルサイトを挟在する。また、鏡面左側から南側壁下部ではEW走向の低角度北傾斜の割れ目が20~30cm間隔で発達し、NW走向の高角度割れ目で止まる。また、鏡面右肩付近では屈曲した割れ目が認められた。

湧水は南側壁の割れ目2と天端付近の割れ目7、および北側壁の上部の割れ目8から濡れる程度の量が認められた。
岩級区分は、鏡面左側から南側壁下部までは割れ目間隔が20~40cmで、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることからCH(B・Ⅲ・1)級。割れ目2から鏡面右側まで割れ目間隔が10~20cmでハンマーの打撃で鈍い金属音を発する程度の硬さであることからCM(C・Ⅳ・1)級。鏡面右側下部、及び鏡面右肩から北側壁と南側壁上部まではハンマーの打撃でやや鈍い金属音を発する程度の硬さで、割れ目間隔は3~15cmであることからCL(D・Ⅳ・V・1)級と判断した。なお、この箇所では一部脆弱化し崩れやすくなっている。

A工区地質記載シート

A3-請負-計測工(地質)-080911

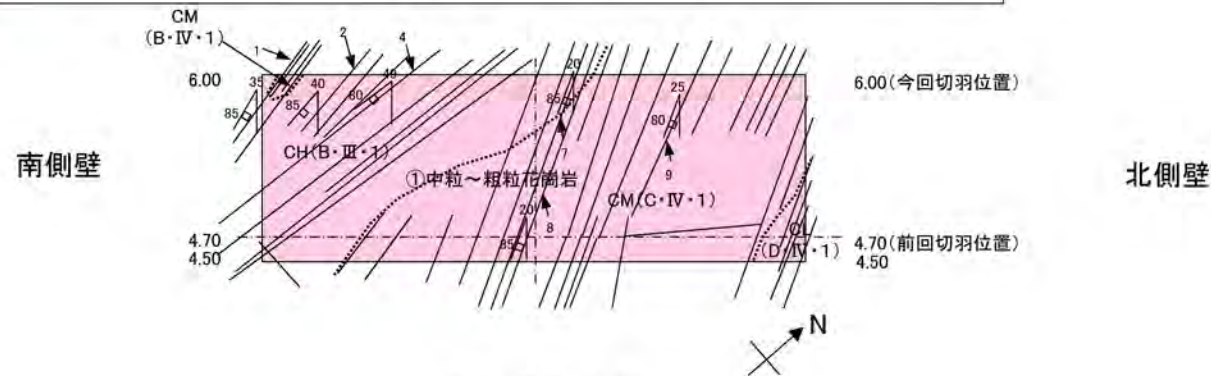
| | | | | | | | |
|-------|------------|----|-------------------------|-------|---|--------|--|
| シート番号 | -300m避難坑-4 | 日時 | 平成20年10月4日 3:50~5:00 | 位置・深度 | -300m避難坑-4 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m | 観察・撮影者 | |
|-------|------------|----|-------------------------|-------|---|--------|--|

| | | |
|-------|-------|-----|
| 総括監督員 | 主任監督員 | 監督員 |
| | | |

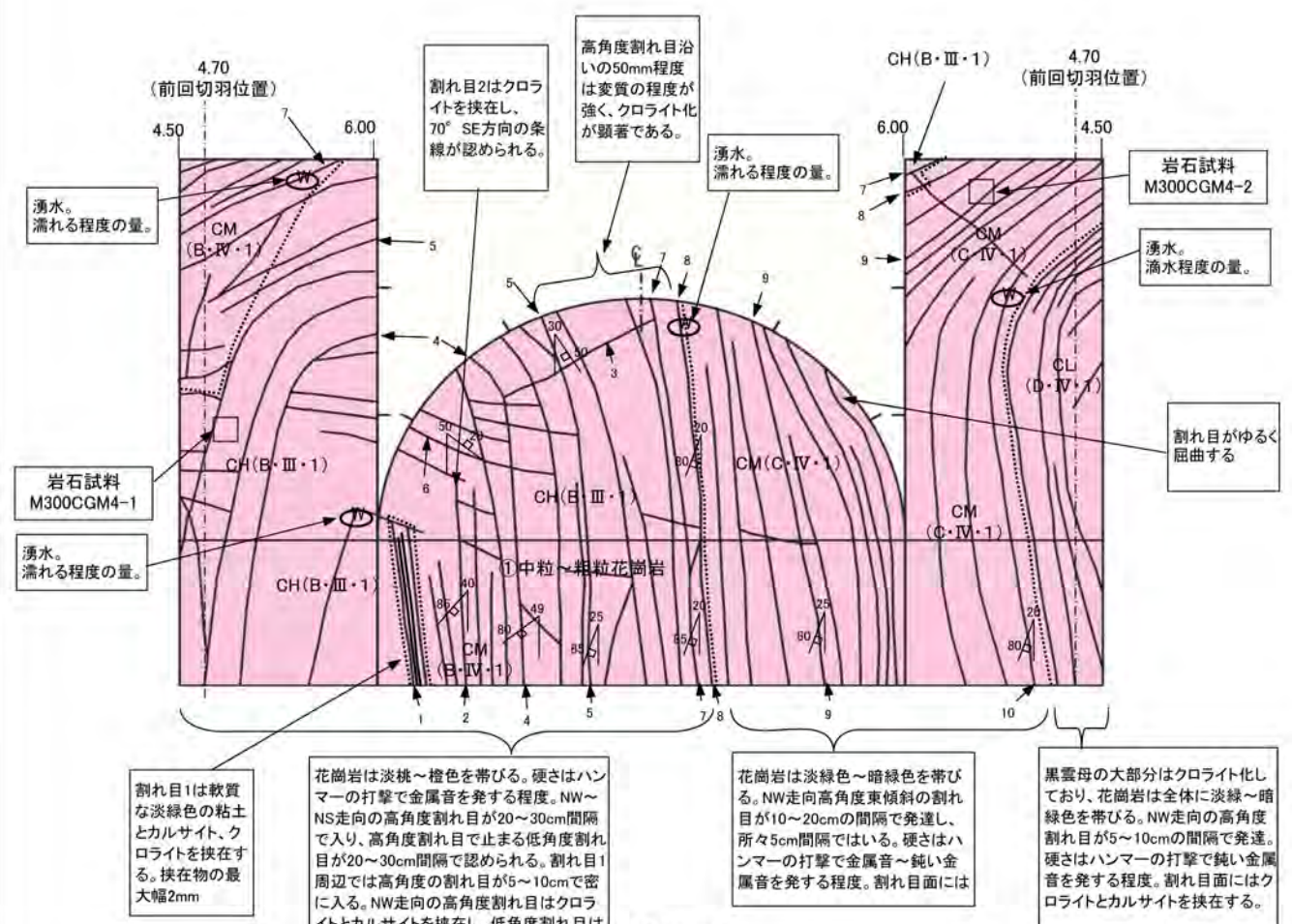
請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例

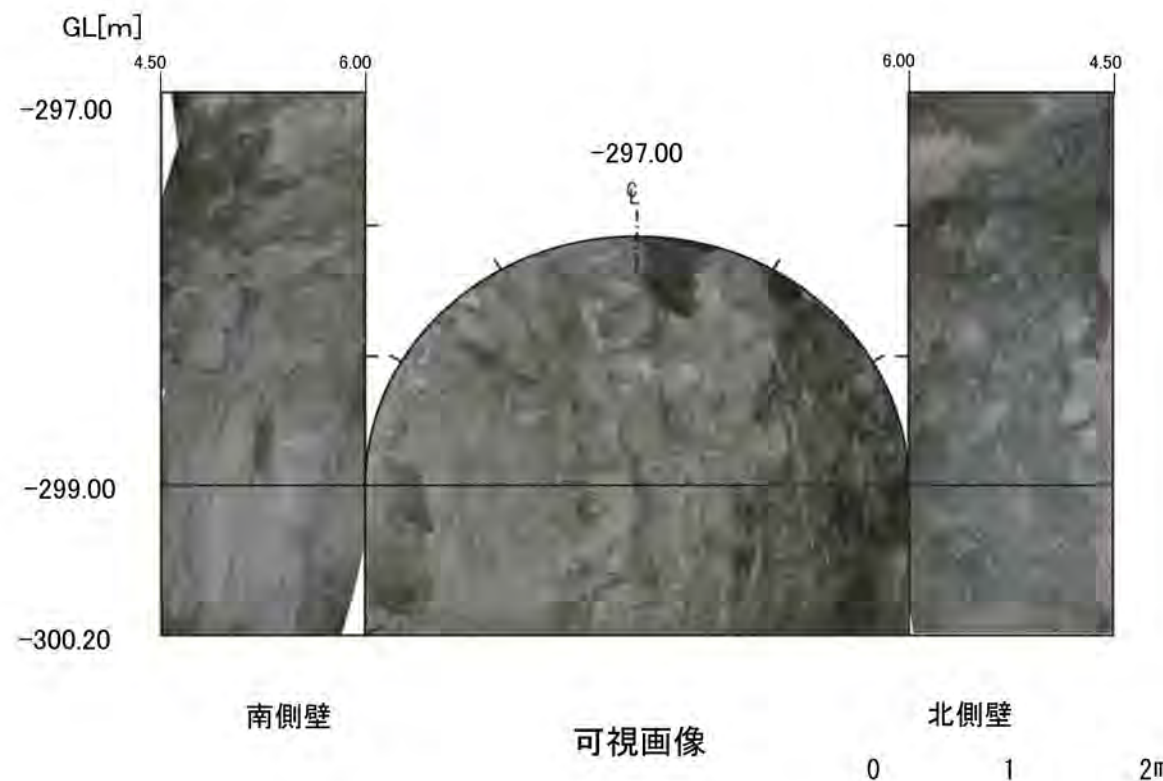
| | | | | | | | | | | |
|--|-----|--|----|--|-----|--|--------|--|-----|----------|
| | 花崗岩 | | 湧水 | | 割れ目 | | 岩級区分境界 | | 70° | 割れ目の走向傾斜 |
|--|-----|--|----|--|-----|--|--------|--|-----|----------|



スライス断面図



スケッチ



南側壁

可視画像

北側壁

| | | | | |
|----|------------------------|--------|-----------------------------------|-------------------------------|
| 岩種 | 花崗岩 | 電研式岩級 | G.L. -297m~299m CH/CM/CL | G.L. -299m~300.2m CH/CM/CL |
| 岩相 | ①中粒~粗粒花崗岩 (橙色、淡緑色、暗緑色) | RMR値 | G.L. -297m~299m 47 | G.L. -299m~300.2m 53 |
| 風化 | α | 岩石試料番号 | M300CGM4-1 (花崗岩)、M300CGM4-2 (花崗岩) | |
| 変質 | 2~4 | 採水試料番号 | 無 | |
| 湧水 | 滴水程度 | | | |

特記事項

当箇所は-300m連絡坑道の避難坑であり、掘進方向はN49W方向である。横坑観察は鏡面から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。
 岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩は鏡面中央から南側壁上部までは変質の程度が弱く、黒雲母はクロライト化せず残存しており、全体に淡桃~橙色を帯びている。その他の箇所では花崗岩は変質が強く、黒雲母などの有色鉱物は大部分はクロライトに置き換わり全体に淡緑~暗緑色を帯びている。
 割れ目はNW~NS走向の高角度東傾斜のものが卓越しており、南側壁から鏡面中央までは概ね20~30cm間隔で見られ、鏡面中央から北側壁までは10~20cm間隔で発達する。高角度割れ目のほとんどにクロライトを挟在する。また、南側壁から鏡面右側まではEW走向の低角度北傾斜の割れ目が20~30cm間隔で発達し、高角度割れ目で止まる。また、鏡面右側付近では屈曲した割れ目が認められた。

湧水は北側壁の上部の割れ目10から滴水程度の量が認められた。また、南側壁の割れ目1および天端付近の割れ目7から濡れる程度の量が認められた。
 岩級区分は、鏡面左側から鏡面中央の割れ目8までと南側壁の上部までは割れ目間隔が20~30cmで、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることからCH(B・Ⅲ・1)級。鏡面中央の割れ目8から北側壁までと南側壁上部まで、および鏡面左側の割れ目1の周辺は割れ目間隔が5~20cmでハンマーの打撃で金属音から鈍い金属音を発する程度の硬さであることからCM(B・Ⅰ・Ⅳ・1)級。南側壁の一部はハンマーの打撃でやや鈍い金属音を発する程度の硬さで、割れ目間隔は5~10cmであることからCL(D・Ⅰ・Ⅳ・1)級と判断した。なお、この箇所では一部脆弱化し崩れやすくなっている。